

試験操業におけるヤナギムシガレイの漁獲状況

福島県水産海洋研究センター 海洋漁業部

1 部門名

水産業—資源管理—底びき網

2 担当者

坂本 啓・安倍裕喜・山田学・佐藤利幸・松本陽

3 要旨

試験操業におけるヤナギムシガレイの漁獲実態を把握するため、2005～2009年、2016年及び2017年漁期における底びき網の水揚げ量、全長測定データ及び単価を整理した。

- (1) 2016、2017年漁期の漁獲量はそれぞれ70t、81tであり、2005～2009年漁期(以下、震災前)平均の6割以上の漁獲であった。また、2016、2017年漁期の平均漁獲尾数と1尾あたりの平均体重は、震災前平均のそれぞれ55%、123%であった(表1)。
- (2) 漁期別年齢別漁獲尾数は、震災前は全長16～19cmの1、2歳魚が主体であり、2016、2017年漁期は全長21～23cmの3、4歳魚が主体であった(図1)。
- (3) 単価は、2017年漁期は震災前と比較すると漁期を通じ低めで推移しており、震災前のように11、12月に単価が急激に高くなる傾向は見られなかった(図2)。

表1 漁期別漁獲量と漁獲尾数

漁期	漁獲量 (t)	漁獲尾数 (千尾)	g/尾	平均漁獲尾数(千尾)	平均 g/尾
2005年	92	1,048	87		
2006年	110	954	115		
2007年	89	1,100	81	1,297	87
2008年	124	1,434	87		
2009年	146	1,947	75		
2016年	70	730	96	712	106
2017年	81	694	117	(55%)	(123%)

注：()は震災前5年平均に対する割合

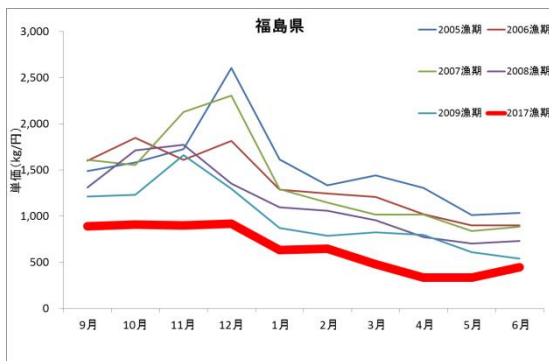


図2 漁期別月別単価の推移

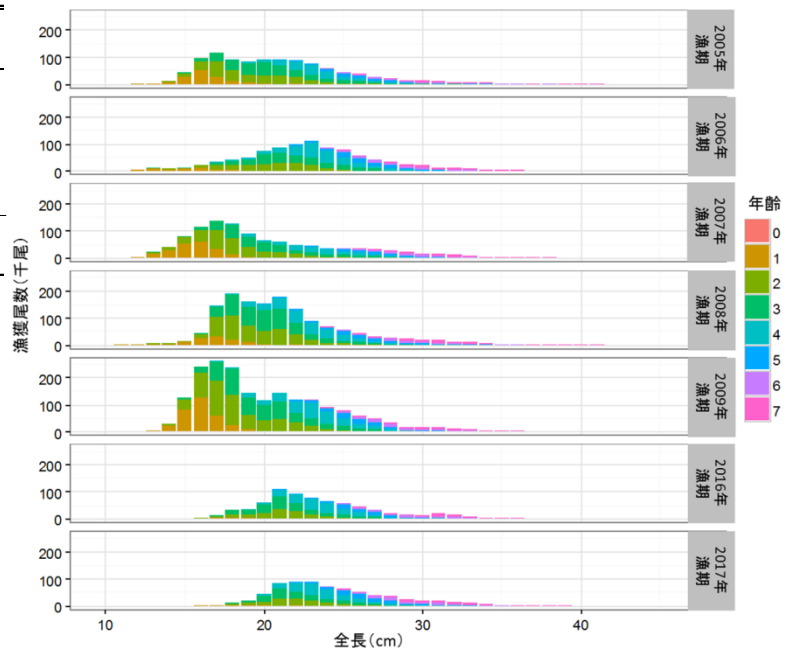


図1 漁期別年齢別漁獲尾数

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成17年度～30年度
- (2) 研究課題名 底魚資源の管理手法に関する研究
- (3) 参考となる成果の区分 指導参考

5 主な参考文献・資料

- (1) 島村信也他.福島県沿岸で漁獲されたヤナギムシガレイについて、福島水試研報第9号(2000)
- (2) 平成22年度福島県水産試験場事業概要報告書、26-27(2011)